姫川源流

2011.04.29

久家　隆男

私はローカル線では大糸線に乗ることが多く、信濃大町より先では、信濃木崎、海の口、簗場、神城、白馬の各駅で乗車または下車したことがある。しかし、南神城駅で下車したのは初めだ。

歩き始めると、４月下旬だというのに道端に掻いた残雪が高さ１ｍ程度に積まれている。風も冷たい。思わず「あずさ２号」の「〽春まだ浅い信濃路へ～・・・」を口ずさむ。

田舎道を地形図を頼りに歩くが、通行人に全く会わない。20 分ほどで姫川源流の入り口に着く。姫川は北アルプスの東山麓に沿って北上し糸魚川から日本海に注ぐ一級河川である。その源流は私の好きな山の一つである鹿島槍ヶ岳の真東にある。

整備された道を下ると木道があり、その周辺には無数の福寿草が咲き誇っている。直ぐに一眼デジカメを取り出す。姫川の源流となる清流には水芭蕉も見られる。未だ早いようで、花の数は多くない。水芭蕉は一株毎に個性があるので、品定めをしながらレンズを向ける。

次ぎに、隣の親海湿原に行く。杉林の中は10～20ｃｍの残雪の道で、山靴を履いてきたのが正解であった。親海湿原の花はカキツバタ等のこれから咲く花が多いようで、見渡しても花は全く見あたらない。入口付近で引き返すが、足下に１０本位のフキノトウが芽生えていた。

今日は日曜日なので観光客がちらほらいるが、それでもこれだけの地にしては非常に少ない。地元の観光協会ではＰＲしているようだが、あまり知られていないと思える。車で来ても通り過ぎて白馬まで行ってしまうようだ。
ここは充分に管理されているとは思えないが、ごみがあまり落ちていない。駅からの間、コンビニも雑貨屋も自動販売機も見あたらなかったが、これも観光客によって汚されていない理由に思える。スイスと同様である。
私は松本から約１時間半かけて電車で来たが、南神城に停車するのは３時間に１本位の間隔だ。従って、帰りも予定の時刻に駅に戻らないと大事になる。このため、腰を据えて撮影することはできなかった。
それでも、今の自然が保たれるならば、いつまでも不便であってもよいと思う。